

暖地馬鈴薯の育種に関する研究

第2報、品種の開花に関する調査

北野保樹・室園正敏・佐田 満
(長崎県総合農林センター愛野馬鈴薯センター)

KITANO, Y., MUROZONO, M. and SADA, M.
Studies on the Breeding of Potato in the
Warmer Region of Japan

(II) Observations on flowering of potato varieties

交配育種において、開花の特性を把握することは、交配能率をあげるうえに必要である。暖地馬鈴薯の春作と秋作とは、気象的に異なる条件下で栽培されるため、開花も両作ではかなり異なつた様相を呈する。そこで品種保存中の96品種・系統について1960年から5ヶ年、開花の特性について調査した。

1. 調査方法

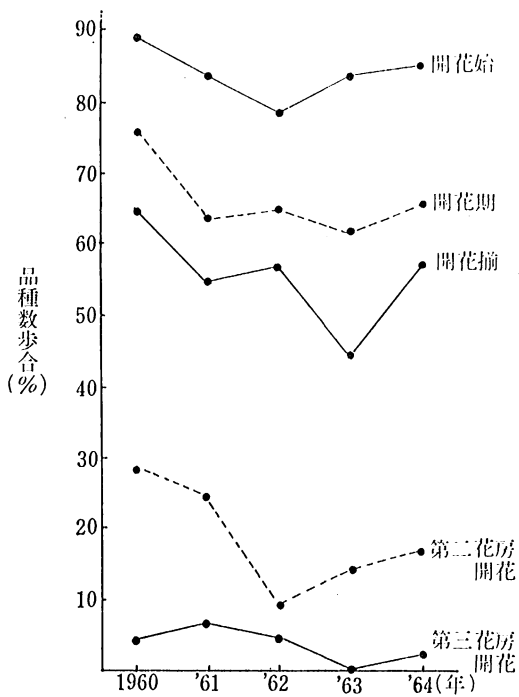
春、秋作共に1品種・系統15個体、1区制。栽培は当センター標準耕種法によつて行つた。調査項目の萌芽始及び開花始；最初の株に萌芽及び開花が見られた日、開花期；開花株率が50%に達した日、開花揃；開花株率が80%に達した日、開花期間；開花始から開花終までの期間、開花数；第一花房の花房当り、熟性；収穫時の茎葉の黄変程度によつてⅠ（晩生）からⅥ

（早生）の6段階、開花株率；供試個体数に対する開花株の割合で示した。以上の調査の結果は一部（開花株率と開花数の多少との関係）を除いて5ヶ年の成績の平均値で示した。尚、第5図における第二花房第三花房まで開花の開花数の多少は第一花房の一花房当りである。

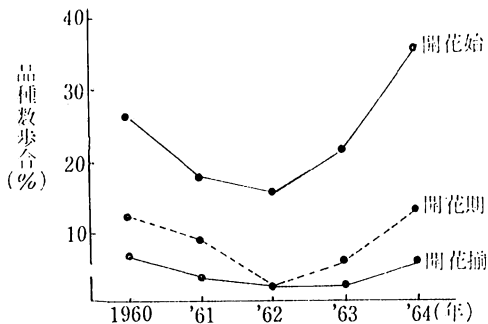
2. 調査結果及び考察

春作で開花する品種で開花数の少ないものは、秋作での開花は殆んどみられない。熟性のおそい品種には開花数の少ないものから多いものまで分布する。春作において開花株率の高いものには開花数の少ないものから多いものまで分布する。第二、第三花房まで開花する品種は開花数も多い傾向がある。

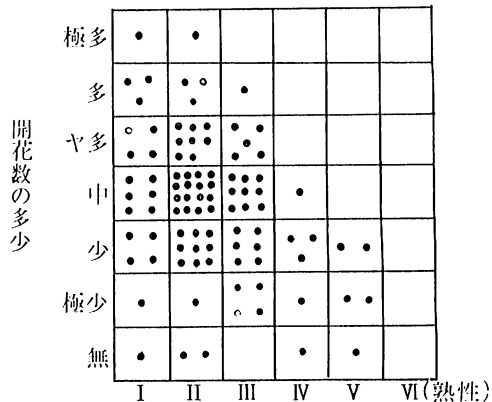
第1図-I 各年次の開花品種歩合、春作



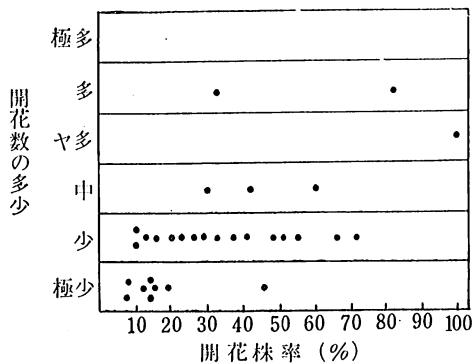
第1図-II 各年次の開花品種数歩合、秋作



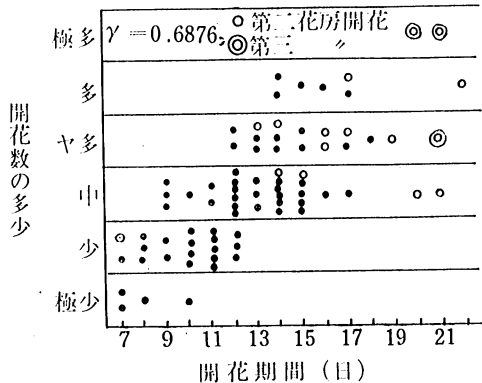
第3図-I 開花数多少と熟性との関係・春作



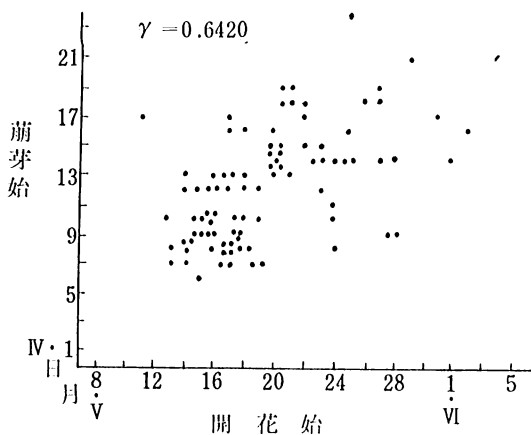
第4図-II 開花株率と開花数の多少との関係 (1953:64年の平均) 秋作



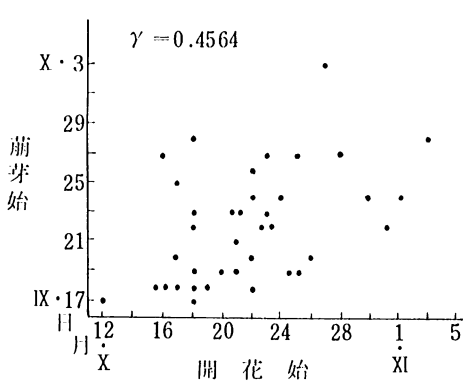
第5図-I 開花期間と開花数の多少との関係・春作



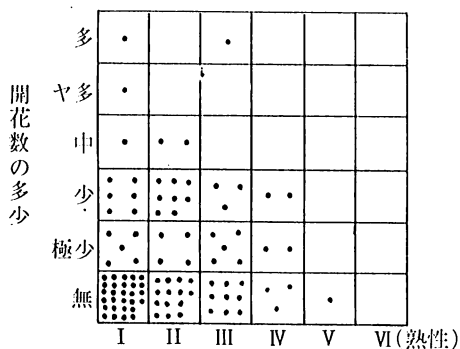
第2図一I 萌芽始と開花始との関係、春作



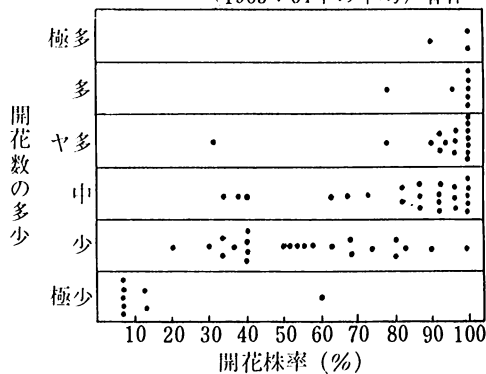
第2図一II 萌芽始と開花始との関係、秋作



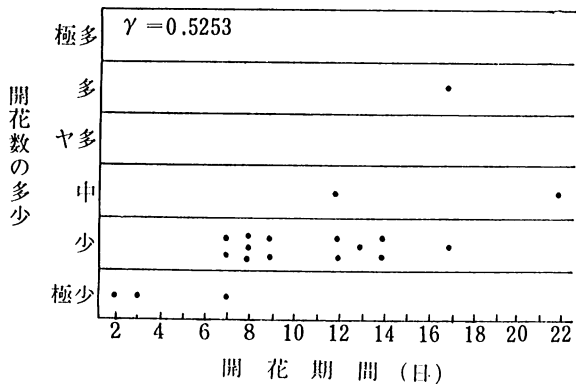
第3図一II 開花数の多少と熟性との関係、秋作



第4図一I 開花株率と開花数の多少との関係 (1963:64年の平均) 春作



第5図一II 開花期間と開花数の多少との関係、秋作



第6図 春作と秋作との開花数の関係

